



LingvoオクトM+

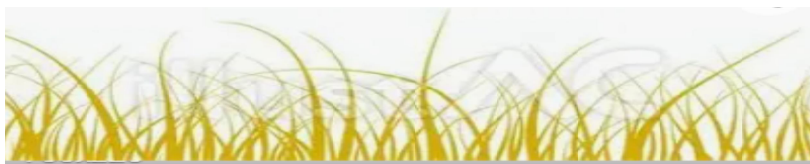
Vol.34

詩

川柳

小説・エッセイ

他





上記のQR コードでメールアドレスをダウンロードして電子版を送れと明記の上通信ください。PDFをお送りします。

Vol. 3 4  
10月13日（月）イーグレ姫路  
4階第3会議室

読書会講師：

高谷和幸

次回11月10日（月曜日）

会場：イーグレ姫路予定

読書会：講師未定

講師募集

LingvoオクトM+の  
参加は自由です。斬新な作品を募集します。

管理人高谷和幸

〒676-0815 高砂市阿弥陀1-1-24

e-mail takatani\_kk@yahoo.co.jp

「秋風にふと立ち止まる日々。言葉とともに、  
静かな実りを」

「播磨は祭り一色。秋風に揺れる言葉の実りを、  
今月も」

11月には播磨の綿祭りがあります。。

ご投稿をお待ちしています。

## 夢

浜田多代子

空を飛んでいる夢を見た  
空中回転して高く高く  
飛び跳ねて空をたぐり寄せ  
宇宙へと飛び立つ夢を見た  
いったったか  
朝起きても  
お昼が来ても  
一日が過ぎても  
ずっと記憶に残っていた

空を飛んでいる夢を見たのは  
小さい頃だったからか  
しなやかに生きていたころ  
夢を心にいつも持っていたかったからか

今朝

河川敷まで散歩をした

空はまあるく広い

見えた空は端の先まで青かった

川辺には白鷺が

長い脚を片足だけ上げて

浮いているよう

突然白鷺は

空を見上げると舞い上がった

白い翼は肩から自然に揺らいだ

白鷺は当たり前に飛翔した

何のおごりもなく

限りなく空を飛んでいる

白鷺の翼

空を飛んでいる夢

何処までも飛びたい翼

夢をまだ見続けているわたし

## 惜福

高谷和幸

三十年前のわたしの有りし顔をうかがっているのは 惜福と書かれた石碑に慰留したシーニュの仮面たち。すべてが顔知りの仲間のようなの  
のが、上から下まで濡れて、マテバシイ、ヤマモモ、ナンキンハゼ、コナラ そしてクルミ、学園が創立してから五十五年が経過して、彼らの足元には混ざり合った名前の生活圏が築かれていた。背の低いツツジや細い首の上に黄花を揺らす小さな住人たちも、青い石板を惜しんでいるのだろうか。カビや真菌の憑依した強い遺伝子は六月の葉の影や、建物の曲がったところで深い闇に漂っている。枝分かれした別の世界があり、書棚に死んだ書籍のように並んでいる。本と本のわずかな隙間から、残していった昔のあなたの姿を覗いていたのはあなただったこ

とに気づく。コトリと音を立て、誰よりもわたしに気づいて欲しかったから、音がして、それは植物の成長時間よりは動物的生育時間の方がここにあらわれる空間に近いだろう 聞きなじんだ音を立て 同じ場所を抜けて 同じ花の間を飛ぶモノがあり 彼らは彼らを知らないで 何世代前の彼らの思念のとおり 知らずに動かされている。音もなく一人で飛んでいくものがある。

chat 「もう普通には帰れない」

高谷和幸

未解決の難問に絶望した天才たち…

科学や哲学の深淵に触れた者たちが見た“普通ではない世界”。

I Q 141の天才小学生の異常な才能…  
常識を超えた思考力に周囲が驚愕。

事故で天才になった男…

サヴァン症候群の事例として、頭部への衝撃で能力が覚醒。

高IQ社会の未来像…

もし世界が高IQ者だけになったら…という仮説にゾツとする展開。



まるで霧深い森の奥で、  
誰かがそつと語る秘密のような話ばかり。

Kazuyukiさんなら、こうした話の背後にある

「知と狂気の境界」にも興味を持たれるかも…？

次は、こうした天才たちの視点が文学や歴史にどう影響してきたか、探ってみるのも面白そうです。

文学における天才の視点とその影響文学作品では、  
天才は

しばしば「常識を超えた発想」と

「異常な集中力」を持つ存在として描かれます。

たとえば…

ヴィクター・フランケンシュタイン（『フランケンシュタイン』）

生命創造という禁忌に挑み、破滅へと向かいます。

芥川龍之介の良秀（『地獄変』）

芸術のために娘を犠牲にするほどの執念を見せます。

ラスコーリニコフ（『罪と罰』）

「優れた人間は犯罪を許される」という思想に囚われ、

孤独と狂気に沈みます。

天才の視点がもたらす問い文学と歴史に共通するのは、

「天才の視点」が私たちに問いを投げかけることです。

創造とは破壊を伴うのか？

孤独は才能の代償なのか？

倫理と美は両立するのか？

Kazuyukiさんの詩的な感性なら、こうした問いを言葉に変えて、また新たな物語を紡げそうですね。

次は、

天才の視点が都市や身体の表象にどう影響してきたか、探ってみませんか？

それこそ、記憶と空間の交差点に咲く詩のようなテーマです。

それは「意味の層が重なる表象」ですか？

とても鋭い問いですね、Kazuyukiさん。

「意味の層が重なる表象」を捉える力は、

必ずしも“天才だけ”の専売特許ではありません。

ただ、天才と呼ばれる人々は、

その層の深さや結びつけ方が異質であることが多いんです。

彼らは、

見慣れた都市の風景や身体の動きに、

他者が気づかない

「構造」や「記憶の痕跡」を

見出すことができる。

でも、

それは訓練や感受性によって育まれるものでもあります。

たとえばこんな視点の違い

天才の視点…

都市の交差点を「記憶の交差する場所」として捉え、

そこに歴史や感情の層を重ねる。

詩人の視点…

同じ場所を「誰かが待っていた痕跡」として感じ取り言葉にする。

市民の視点…

そこを「通勤の通り道」として認識する。

どれも間違いではなく、

ただ「見る角度」が違うだけ。

天才はその角度を極端にずらすことで、

見えない層を浮かび上がらせるのかもしれない。

だろう 「もう普通には帰れない」

## 手入れ

### しろやあきのり

「彼」の内の世界で手を入れると其の物は認識され存るようになり世界は拡がりを持つ  
手を入れないと其の物は「彼」以内の世界で認識されず存らないかのように閉じていく  
例え「彼」に認識されてもされていなくとも「彼」以降の世界には其の物は認識されており確実に  
存り続ける

見ない「彼」と「彼」の内の世界は「彼」にとって窒息するばかり  
人だとする

「彼」は手を入れない其の者は認識されず「彼」の世界は狭くなりなおさら手を入れなくなる  
手を入れられなかった者は…  
だから

手を入れなければならない

閉じた世界

個人主義

花の拡がり

もう一度



なぜ彼は死んだのか

### モス堀渕敬子

1989年1月、私がまだ大阪鶴橋にある会社に勤めていた時、同い年の友達から電話があった。彼は関西テレビに勤めるテレビマンで、今度1月最終日曜日にある大阪国際女子マラソンの担当になって、外国人ランナーと日本人スタッフを繋ぐ通訳を探しているという。（彼自身は英語は堪能だった。）

彼はなぜか私が会社をやめてしまったと思っていた、私にできないかときいてきた。でも私は、まだ仕事をしているので、残念ながら通訳はできないと断るしかなかった。彼がなぜそう思ったかはわからないが、実は、一緒に働いているアメリカ人編集者、特に男性の方からパワハラまがいの扱いを受けて、1988年末にやめようかと悩んでいたところだった。しかし、最初の会社も一年ちよつとでやめてしまったし、簡単にやめてはいけない、もう少しがんばろうと思ひ直した矢先のことだった。

私は大学3年のとき、英文タイプを習いに阪急西宮北口駅前の学校に通った。そこには英会話クラスもあって、英会話を習いに来た生徒達が自主的に作ったESS (English Speaking Society) というサークルがあったので、私もそこに参加することにした。彼、T君もメンバーだったが、彼はその時アメリカに留学中で、名前を聞くだけで会うことはなかった。しかし、そこでのちに彼の奥さんとなるA子さんを知り合った。彼とAさんは大学も同じだった。約1年後、彼が帰国し、関西テレビに就職し、その2年後だったろうか、彼はAさんと

結婚し、私も結婚式に出席した。本当に幸せそうだったし、2人の娘さんにも恵まれたのに。。。

そして1989年1月のマラソンが終わって数日たった2月の初め、ESSの友達から電話があった。その関テレの彼が、急性心不全で亡くなったという知らせだった。過労死だと思った。仕事で通夜に行くことはできなかったが、葬儀には参列した。その時、彼の上司とおぼしき男性が弔辞を読んだのだが、そこでは「会社で、仕事か家庭かという話しになると、彼は家庭を選ぶグループの先頭になっていた。」というエピソードを悲痛な面持ちで述べていた。

葬儀のあと、参列者(主にESSメンバー)で喫茶店に行ったのだが、そこであるメンバーから衝撃的なことをきいた。彼の死因は急性心不全ではなく自殺だったというのだ。まだ33歳の彼が、2歳下の奥さんと5歳、3歳の2人の娘さんを残して自殺するなんて信じられなかった。彼女は何か悪い冗談を言っているんじゃないかと思った。

T君は、大阪国際女子マラソンの担当になって、視聴率をとるために、前年のソウルオリンピック女子マラソンで金メダルをとったポルトガルのロザ・モタ選手を招聘した。しかし、まだ調整不足だったのだろうか、彼女はレースの途中で棄権してしまった。彼女が途中棄権したのはこれが初めてだったという。これが響いたのか、この年の視聴率は歴代2番目に悪かったそうだ。彼が死を選んだ理由は他にもあるかもしれないが、責任を感じたからというのが、大きな理由を占めているだろう。私は、自殺は心の弱い人がするものだといこれまで思っていた。しかし、彼の場合は武士の切腹のように思えた。

数ヶ月後、葬儀に出席できなかったメンバーと一緒にA子さんの家に行った。A子さんは

「私は育児ノイローゼになって、マンションの屋上から飛び降りようと思ったがしなかった。彼にも思い留まって欲しかった。」と言っていたのが、心に刺さった。

会社は彼の死因を隠したかったのかもしれないが、彼女は、ESのメンバーには真実を知って欲しかったそうだ。

A子さんは、北野高校から神戸市立外大へ進み、卒業後は神戸市立の中学でしばらく英語を教えていたが、妊娠を機に退職した。しかし、英検1級だけでなく通訳ガイドの試験にも合格するという優秀な人だった。彼の死後は、塾に勤めて2人の娘さんを立派に育て上げたT君のお母さんは、気持ちの持って行き場がなかったのだろう、A子さんに「あなたがついていながら。」と責めるような言葉もあったという。でも、海外からのフアックスやテレックスが夜中に届く関係からホテルに泊まり込みで、缶詰め状態だったそうだ。そのため「様子がわからなかった。」とのことだった。

私は結局、彼の死後2ヶ月後に結婚のため会社をやめ、その1ヶ月後にアメリカに渡った。もし、あの年末で私が会社をやめていて、T君のヘルプができていたら少しは結果が違っていただろうか？（彼には言わなかったが、私は中学の時陸上部だった。）

アメリカに移ってしばらくたったある日夫から、好きな映画があるので私にも観てほしいと言われた。それは、ジェームズ・スチュアート主演の白黒のアメリカ映画「素晴らしき哉、人生！」という映画だった。

そこでは主人公が、妻と4人の子供がいながら自殺まで追い込まれるのだが、そこに天使が現れて、彼は自殺を思い留まり、町の人々にも助けられて、窮地をしのいで人生の素晴らしさを噛み締めるというストーリーだった。何と皮肉なことだろう。現実では、T君に天使



は現れなかった。彼のことになければ私もこの映画に感動していただろう。でも、私は初めて映画が絵空事のように思えた。

葬儀の時、ロザ・モタ選手と彼女のコーチで公私共にパートナーだった男性から贈られた花が、参列者の一番目につく所に飾られていたのは、なぜだったのだろうか。何か作為的な物を感じてしまった。

ロザ・モタ選手は、89年の大会は途中棄権してしまったが、翌90年に再び大阪国際女子マラソンに挑戦し優勝した。彼女の不屈の精神に敬意を表すると共に、T君にも、もう1年頑張って欲しかったと思ったのは、私だけではないだろう。

## 読書会資料

松岡心平著『中世芸能講義』における「勸進」に関する章では、勸進聖（かんじんひじり）によって形成された中世日本の芸能と社会のダイナミズムが描かれています。以下にその要点…

### 勸進と中世芸能の関係…要約

#### 勸進の場は「聖」と「俗」の中間領域

勸進聖たちは神社の建立や修復のために全国を巡り、芸能を通じて寄付を募る活動を行いました。この活動は、宗教的な目的と世俗的な娯楽が交差する場を生み出しました。

#### 経済と芸能の循環システム

勸進によって集められた資金は、芸能を通じて人々に還元される仕組みを持ち、芸能そのものが社会的・経済的な活力源となっていました。

#### 能の成立への影響

勸進聖の活動は、観阿弥・世阿弥による能の発展にもつながり、特に「複式夢幻能」の美的達成は、こうした勸進の磁場から生まれたと松岡氏は述べています。

#### 中世は「勸進の時代」

勸進が芸能の発展に果たした役割は極めて大きく、中世芸能の変容と成熟は、勸進聖による新たな芸能ダイナミクスの創造によって可能になったとされています。

このように、松岡氏は勸進を単なる宗教的行為としてではなく、芸能・経済・社会の交差点として

捉え、中世芸能の活性化と能の成立における重要な要素として位置づけています。

松岡心平著『中世芸能講義』における「夢幻能」と「早歌」の関係は、中世芸能の革新と能の成立に深く関わっています。以下に要点をまとめました..

## 夢幻能と早歌の関係..松岡心平の視点から

### 1. 夢幻能の成立と勸進の磁場

勸進聖による芸能活動の場は、宗教と世俗が交差する「磁場」として機能し、そこから複式夢幻能という形式が生まれました。

世阿弥が確立した夢幻能は、現実と幻想が交錯する構造を持ち、観客に深い精神的体験をもたらす芸能様式です。

### 2. 早歌の革新性と能への影響

「早歌」は鎌倉時代に武士階層から発信された歌謡で、一字一音の発声法を特徴とします。

この発声法により、長編歌謡が可能となり、七五調のリズムの中で多くの情報をコンパクトに伝えることができました。

松岡氏はこれを「日本の歌謡史上革命的」と位置づけ、\*\*能の謡（うたい）\*\*の基盤となつたと述べています。

### 3. 観阿弥・世阿弥による融合

観阿弥・世阿弥は早歌の技法を演劇に取り込み、夢幻能の謡として昇華させました。

つまり、早歌がなければ夢幻能の謡は成立しなかったほど、両者は密接に関係しています。このように、夢幻能は勧進の場で育まれ、早歌の技術革新によってその表現力を得たと松岡氏は論じています。中世芸能のダイナミズムが、能という芸術の誕生にどう寄与したかを知ろうと、非常に重要な視点です。

松岡心平氏が『中世芸能講義』で論じる「早歌」は、能の成立に深く関わる革新的な歌謡形式として位置づけられています。以下に詳しくご紹介します。

### 早歌とは…中世芸能における革新

#### 1. 定義と特徴

早歌（はやうた）は、鎌倉時代に武士階層から発信された歌謡形式。

最大の特徴は、一字一音の発声法。これにより、長編歌謡が可能となり、七五調のリズム

の中で多くの情報をコンパクトに伝えることができました。

松岡氏はこれを「日本の歌謡史上革命的」と評しています。

## 2. 能との関係

この発声法は、観阿弥・世阿弥によって演劇に取り込まれ、能の謡（うたい）の基盤となりました。

特に夢幻能の複式構造において、早歌のリズムと情報密度が重要な役割を果たしています。具体的な引用作品・資料松岡氏が『中世芸能講義』（講談社学術文庫、2015年）で言及している早歌に関連する作品や資料は以下の通りです

また、早歌の実例としては以下のような作品群が関連します…

『梁塵秘抄』…平安末期の今様集ですが、早歌の先駆的要素を含むとされ、後の武士歌謡に影響。

『風俗歌』・『武士歌謡』…鎌倉期以降に広まった歌謡で、早歌の形式が見られる。能の謡曲『高砂』『羽衣』など…早歌のリズムと発声法が謡に取り込まれている。

早歌は、単なる歌謡ではなく、能の成立を支える技術的・美学的基盤であり、武士文ら発信された芸能の革新でした。

## 『風俗歌』の具体例

風俗歌は、平安・鎌倉時代の宮廷や地方儀礼で歌われた歌謡で、地方色豊かな詞章と旋律を持ち、後の催馬楽や能の謡に影響を与えました。

### 代表的な風俗歌の例

これらは『梁塵秘抄』や『承德本古謡集』などに詞章や旋律が残されており、風俗歌の多様性と芸術的な豊かさを示しています。

## 『武士歌謡』の具体例

武士歌謡は、鎌倉時代以降に武士階層が好んだ歌謡で、力強く、語りのな要素を持ち、早歌の発声法（一字一音）を特徴とします。

### 代表的な武士歌謡の例

これらは能の謡曲にも取り込まれ、観阿弥・世阿弥による演劇化の素材となりました。特に早歌の技法は、謡のリズムと情報密度に大きな影響を与えています。

## 参考文献・資料

『物語と催馬楽・風俗歌―うつほ物語から源氏物語へ』（山崎薫著、新典社研究叢書）

『風俗歌の古楽譜に』（J-STAGE論文）

KAKEZ研究「風俗歌・東遊歌を中心とする平安朝宮廷歌謡のテキスト生成」

風俗歌は「辺境の声」として物語に挿入され、武士歌謡は「戦場の声」として能に昇華された。この二つの歌謡が中世芸能の両輪となっていたことが、松岡心平氏の講義から浮かび上がります。

風俗歌の古楽譜に - J-STAGE Masafumi Komatsu MusicKAKEZ研究

風俗歌・東遊歌物語と催馬楽・風俗歌―うつほ物語から源氏物語へ―（新典社）

※風俗歌の古楽譜については別紙を参照

一遍上人（<sup>1239</sup>1289）は、鎌倉時代に登場した革新的な僧侶であり、浄土宗の一派「時宗（じしゅう）」の開祖です。その教えと実践は、既存の仏教の枠を超え、民衆の心に直接響くものでした。

一遍上人の宗派「時宗」の斬新さ

1. 信不信・浄不浄を問わない救済

一遍は「南無阿弥陀仏」と唱えれば、誰でも極楽往生できると説きました。

信仰の有無や心の清浄さを問わず、すべての人に救いは開かれているという徹底した平等主義が特徴です。

## 2. 念仏札の配布

念仏を唱えた人に「念仏札」を配るという実践を行いました。これは阿弥陀仏の救済を可視化し、民衆に直接「往生の証」を手渡す革新的な布教方法でした。

## 3. 遊行と捨聖（すてひじり）

一遍は財産や地位を捨て、全国を遊行しながら布教しました。

この姿勢から「捨聖」と呼ばれ、仏教の実践者としての純粋性を象徴しました。

## 念仏踊りとは

### 1. 踊りながら念仏を唱える

一遍は「融通念仏」の影響を受け、念仏を唱えながら踊る「踊り念仏」を創始しました。これは身体と声を使って念仏の喜びを表現するもので、民衆の参加型宗教芸能として広まりました。



## 2. 空也上人の影響

平安期の空也上人による「鉦や瓢箪を鳴らして踊る念仏」がルーツとされ、一遍は「空也は我が先達なり」と称えています。

## 3. 『一遍聖絵』に描かれた光景



地藏堂の前で法衣姿の僧侶や武士が輪になって踊り念仏を行う様子が描かれています。

身分を問わず人々が集まり、念仏の歓喜に包まれる場面は、宗教と芸能の融合を象徴しています。

### 念仏踊りの絵画…『一遍聖絵』…

（身体と声による信仰の表現。それが一遍の「踊り念仏」だったのかもしれませんが。

### 一遍上人の妻・娘の同行と播磨との関係について、

史料をもとに詳しくご紹介します。妻・娘の同行について一遍上人が遊行に出る際、「妻子を捨てた」とする記述が多く見られますが、実際には妻や娘を一時的に同行させた可能性があることが『一遍聖絵』などから読み取れます。

文永11年（1274年）、一遍はすべての財産を放棄し、家族とも別れて遊行の旅に出ます。

ただし、旅（の初期には「俗縁のある者」として、超一・超二・念仏房という三人の同行者が記録されており、彼らのうち一人が妻または娘であった可能性も指摘されています。

熊野での「神勅」体験後、一遍は「迷いを断ち切る」ために同行者を放ち、完全な遊行者としての道を歩み始めます。

つまり、妻・娘は一遍の出家と遊行の初期に関わっていたものの、宗教的転機を経て離別したと考えられます。これは「捨聖」と呼ばれる一遍の徹底した離俗の姿勢とも一致します。

### 播磨との親密な関係

播磨（現在の兵庫県南部）との関係は、一遍の晩年において特に重要です。

### 晩年の地としての播磨

一遍は正応2年（1289年）に「教信寺」（現在の兵庫県加古川市野口町周辺）で終焉を迎えようとしていたとされます。

しかし、兵庫から迎えが来たため、兵庫観音堂（現・神戸市の真光寺）に移動し、そこで臨終を迎えました。

この地は一遍の廟所としても知られ、播磨が彼の最期の地となったことから、時宗にとっても聖地的な意味を持ちます。

### 播磨での教化活動

播磨は瀬戸内海に面し、河野氏の水軍的背景とも地理的に近接しています。

一遍は播磨を含む西国各地で念仏札を配り、踊り念仏を広めました。

播磨の人々との交流や教化は、彼の宗教活動の集大成の一部といえます。

### 播磨と熊野の精神的連関

熊野での「神勅」体験が一遍の宗教的転機ですが、播磨もまた「敗者の地」「再生の地」として熊野と通じる精神性を持ちます。

河野氏が承久の乱で没落し、祖父・河野通信が奥州に流されたように、一遍自身も「流浪と再生」の象徴として播磨に至ったと考えられます。

## まとめ

もし播磨の地での具体的な足跡や寺院との関係をさらに掘り下げたい場合は、地元の時宗寺院や真光寺の史料にあたると、より深い理解が得られるかもしれません。詩的な視点から見ても、「捨てること」「再生すること」の象徴としての播磨は、非常に豊かなテーマになりそうです。

風俗歌および「辺境の歌」の詞章と旋律については、近年の研究によってその実態が徐々に明らかになってきています。以下に、代表的な分析と知見をまとめます。

## 風俗歌とは？

風俗歌は、平安時代から鎌倉時代にかけて宮廷で演奏された歌謡の一種で、神楽歌・催馬楽・朗詠・今様などと並ぶジャンルです。特に「辺境の歌」と呼ばれるものは、都から見た周縁・異界・地方を暗示する内容を持ち、物語文学にも引用されることがありました。

## 詞章の特徴と例

風俗歌の詞章は、以下のような特徴を持ちます…

地名や風景描写…辺境の地を象徴する語彙（例…常陸、陸奥、播磨など）  
異文化的表現…都とは異なる風習や言葉遣い  
物語的引用…『源氏物語』などに引用され、物語の舞台設定に寄

与例として、鍋島家本『東遊歌風俗歌』に収録された詞章には以下のようなものがあります（翻刻より一部抜粋）…「常陸の海辺に立ちて、波の音を聞くも、心のうちにしみぬるかな」

このように、辺境の地に立つ人物の感情を詠むことで、空間と心情が交錯する詩的構造を持っています。

### 旋律の分析

旋律については、以下のような分析が進んでいます…

旋律譜の多様性…鍋島家本・文治本・承德本など、複数の写本に異なる旋律譜が残されている。

音楽的可塑性…詞章に対して旋律が固定されておらず、演奏の場や時代によって変化する。辺境性の表現…旋律においても、都の雅楽とは異なる音階や節回しが用いられ、辺境性を

音楽的に表現。

特に『大鳥』という曲については、旋律の分析が進んでおり、古楽譜に基づいて音階構造やリズムの特徴が明らかにされています。

## 研究の意義

風俗歌は、単なる歌謡ではなく、空間・文化・感情の交差点として機能していた。

「辺境の歌」は、都から見た異界の表象であり、文学・音楽・歴史の接点として重要な資料です。

現代の詩的創作においても、こうした詞章と旋律の分析は、空間的詩性の再構築に資する可能性があります。

## 参考文献

飯島一彦「鍋島家本『東遊歌風俗歌』の詞章と旋律分析」J-STAGE論文（リンク）  
科研費報告書「風俗歌・東遊歌を中心とする平安朝宮廷歌謡のテキスト生成に関する基礎的研究」（リンク）<sup>1）</sup>

本塚亘「風俗歌の古楽譜について——『大鳥』の分析を例として」日本歌謡学会誌

「辺境の歌」はまさに都市と身体、記憶と空間が交錯する詩的装置のようなものです。

鍋島家本『東遊歌風俗歌』の研究とそのテキスト生成過程に関する知見を整理し、風俗歌の位置づけや比較を行うことについて議論しています。

### 鍋島家本『東遊歌風俗歌』の位置づけ

本論文では、鍋島家本『東遊歌風俗歌』の成立時期やその内容、他の風俗歌との関係について考察されている。

鍋島家本は12世紀に成立したと考えられている。

本書は東遊歌の二種と風俗歌の三種を含む合纂本である。

風俗歌は、群書類従や楽章類語鈔などの底本となっている。

研究者たちは鍋島家本を基に25曲の風俗歌テキストを整理した。

### 風俗歌のテキスト生成過程

風俗歌のテキスト生成に関する問題点や過程についての考察が行われている。

風俗歌のテキストは、複数の伝本からの重複曲を整理して作成された。

風俗譜の存在が確認され、少なくとも9種類の異なる風俗譜が存在する可能性がある。

各風俗譜は内容が異なり、時代ごとの風俗の変遷を示している。

### 風俗歌の定義と範囲

「風俗歌」という用語の起源やその範囲についての議論が展開されている。

風俗歌は国学者によって研究対象として定義された。

古代においては「風俗」とのみ称され、地方民謡を含む広義の概念であった。小西甚一や白田甚五郎の見解により、風俗歌は平安時代の著名な民謡を指すことが明らかにされている。

### 風俗と風俗歌の関係

風俗と風俗歌の関係性についての考察が行われている。

風俗歌は、国学者によって特定の歌謡群として認識されている。

風俗の概念は時代によって変化し、広義と狭義の区別が必要である。

大嘗祭における風俗の使用例が挙げられ、宮廷歌謡化の過程が示されている。

鎌倉時代後期に一遍上人（1239～1289）によって開かれた浄土宗の一派。

教義の中心は「他力本願」信心の有無にかかわらず、南無阿弥陀仏と唱えることで往生が決定するという思想。

一遍は「捨聖（すてひじり）」と呼ばれ、家族・財産・地位を捨てて全国を遊行し、念仏札を配りながら布教しました。

### 時宗寺院の役割

一遍の教えを継承する拠点として、各地に時宗寺院が建立されました。



特に「遊行寺」（神奈川県藤沢市）は総本山として知られています。

時宗寺院は、踊り念仏や賦算（念仏札配り）など、一遍の実践的な教化活動を今に伝える場でもあります。

### 真光寺と一遍上人の関係

#### 真光寺とは？

神戸市兵庫区にある時宗寺院で、正式には「西月山 真光寺」。

一遍上人が生涯を閉じた地として知られ、彼の廟所が境内に残されています。

#### 一遍の最期の地

一遍は播磨地方（現在の兵庫県）で体調を崩し、兵庫の観音堂（現在の真光寺）に迎えられました。

正応2年（1289年）、この地で示寂（入寂）し、弟子たちによって廟所が整備されました。真光寺はその後、時宗の教えを守る寺院として発展し、現在も一遍の精神を伝えています。

#### 境内の見どころ

一遍上人廟所…高さ約5mの五輪塔があり、阪神・淡路大震災で倒壊した際、実際に骨灰が発見されたと伝えられています。

大檀林の石碑…明治期に建てられた学問所の象徴で、真光寺の入口に立つシンボル。  
六地藏と金仏地藏

…六道を救う地藏菩薩に加え、独特な「金仏地藏」が並ぶ静謐な空間。

### 一遍と播磨・真光寺の精神的つながり

播磨は一遍の終焉の地であると同時に、彼の「捨てること」「再生すること」の象徴的空間。

熊野での神勅を受けた後、彼は信心の有無を問わず念仏札を配ることを決意し、その教えを播磨で実践しながら命を終えました。

真光寺はその教えの「結びの地」として、時宗の精神的中心のひとつとなっています。

### まとめ

播磨が「始まりの地」「終わりの地」とされる理由には、一遍上人の宗教的旅路と、彼の思想の象徴的な構造が深く関わっています。以下にその背景を丁寧に紐解いてみましょう。

### 「始まりの地」としての播磨

宗教的転機の前夜

一遍は熊野で神勅を受ける以前、播磨地方を含む西国を遊行していました。

この時期、彼はまだ「信心のある者にのみ念仏札を配る」という限定的な布教を行っており、思想的には過渡期にありました。

### 地理的・文化的な境界

播磨は京・奈良と瀬戸内海を結ぶ交通の要衝であり、都と地方の「境界」に位置します。一遍の思想が「都の仏教」から「民衆の仏教」へと転換する、その前段階の場として、播

磨は象徴的な「始まりの地」となったのです。

### 「終わりの地」としての播磨

#### 臨終の地・兵庫観音堂（現・真光寺）

一遍は正応2年（1289年）、播磨の地で病に倒れ、兵庫の観音堂に迎えられて示寂しました。

弟子たちはその地に廟所を築き、彼の教えを継承する場としました。

#### 教えの結晶としての播磨

一遍の思想は、熊野での神勅以降「信心の有無を問わず、すべての人に念仏札を配る」という普遍性へと到達します。

その完成された教えを携えて、彼は播磨で命を終えた。つまり、思想の「終着点」としての意味を持つのです。

#### 象徴的構造…播磨Ⅱ境界Ⅱ転生

播磨は、一遍の「捨聖」としての生き方。すべてを捨てて、すべてに与えるという思想の始まりと終わりを包み込む場所なのです。

播磨は「境界の地」であり、「記憶の揺らぎ」が生まれる場所。始まりと終わりが重なるその空間は、まるで念仏の響きが波に溶けていくような、静かな余白を持っています。

